

新工場の建設計画を進行中

松原工場は閉鎖して売却へ

（大阪）JFE商事ブリキセンター（大阪府大東市、清末浩史社長）は現在、新工場の建設計画を進めている。設計・施工は大和ハウス工業が担当。すでに土地所有者との間で売買契約などを済ませており、今後は8月から建設工事をスタートし、来年4月に完工してからはラインの設置などを進める予定で、来年度上期中にはオープンする考えだ。新工場建設と同時に現本社から本社機能を移管するとともに、もう1つの加工拠点である松原工場（大阪府松原市）は閉鎖して土地と建屋は売却。松原工場の従業員に関しては、全員を新工場・現本社工場へ振り分ける。

新工場の建設地は、現本社から900mほどの距離にある大東市新田旭町。敷地は約5100平方メートル、建屋として工場棟と事務所棟を設ける。工場の主要設備はレベラーシャーライン2基で、そのうち1基は新規で購入、もう1基は現本社から移設する。新ラインは平安製作所製で板厚0・15―0・6mmに対応するものとし、同社では初めてとなる表裏面検査機を導入する。移設するラインは制御システムを更新するとともに新レベラーと同様に表裏面検査機を導入するが、コンパクトな設計となっていることからこの機会にライン長さを拡張する改造を行う。製缶メーカーなどが採用しているように、両レベラーラインをクリーンルーム化する。

一方、現本社工場はレベラーライン2基のうち1基を移設するため、設備体制はレベラーライン1基、コーターライン2基、輪転機1基となる。そのうち、レベラーラインは新工場の2基と同様にクリーンルーム化する。クリーンルームの設置工事はイカリ消毒が担当（新工場のクリーンルームは大和ハウス工業が担当）。また、レベラーライン1基を移設することによって生まれる空スペースは母材・製品置き場や工場内通路の道幅拡張などに充てる。現在の本社事務所は引き続き工場の詰め所として使用するため、新工場建設に合わせてリニューアルを検討中だ。松原工場にあるレベラーラインについては、2基とも売却もしくは廃棄することになっている。



新工場のイメージ

今回の投資に至った理由の1つは現本社が非常に手狭で在庫スペースに苦慮し

ていることから、スペースの拡張によってさらなる安全性の推進と作業性の効率を図ること。もう1つは、現本社工場と松原工場とは20m以上離れていて加工応援など様々な面で成約があったため、両工場を一体運営することによって全社の能力をフレキシブルに活用できること。もちろん、旧JFE商事大阪ブリキセンターを母体とした現本社工場と旧新キヨイ鋼業を母体とした松原工場の一層の融和を図る目的もある。この機会にラインの集約・更新を行なって生産効率を向上させるとともに、表裏面検査機やクリーンルームの設置で一層の品質向上を図るのも狙いだ。

同社の現在の月間生産量は、工業缶（ガロン缶・ペール缶）が主体の現本社工場が約2100―2200ト、一般缶が主体の松原工場が約500トで、両工場を合わせた年間生産量は約3万トというイメージだ。今回の新工場の建設や新レベラーの設置によって生産量の増加が期待されるのだが、清末社長は「レベラーのラインスピードが既存の最大80から120ト以上がっても目視検査には限界がある上、クリーンルームへの出入りという工程が1つ増えるなど生産を抑制する不確定要素もある。今回の投資は、あくまでも安全・効率・品質のレベル向上というやるべきことをやるのが目的」と強調した。

（末）